

彼岸だより

東澤山 菜流寺
 住職 武山清堂
 〒 421-2102 静岡市葵区油島 122
 電話 054-294-1215
 (電話は秘在寺へ転送されます)

◆お彼岸

お彼岸とは、春と秋の「彼岸の中日」をはさんだ七日間です。今年は二十日が入り、二十三日が中日で二十六日が明けです。この夏は本当に暑かったですね。お彼岸が過ぎて涼しくなるのが待たれます。



彼岸会御和讃

暑さ寒さも過ぎゆけば
 影も光もなごむなり
 つらき浮き世も耐えゆかば
 よろこび生くる日は近し
 祖先(みおや)のことも偲びつつ
 かたみに法(のり)の道したい
 六度の船に棹さして
 さとりの岸に到るべし

御詠歌

いざ行かん 行きて彼岸の花を見ん
 生死(まよい)の海は波荒くとも

和讃最後の部分「六度の船に棹さしてさとりの岸に到るべし」とは、六波羅蜜(ろっぽらみつ)《布施・持戒・忍辱・精進・禅定・智慧》を修行して悟りの世界にいきましようという意味です。

◆お施餓鬼

八月九日、午前十時より施餓鬼会(せがきえ)が行われました。例年通り法要が行われ、会計報告が済んだあと、長寿者などの表彰が行われました。

今回の対象者は

- 百寿(大正三年生まれ)
- 望月喜友様
- 米寿(大正十五年生まれ)
- 瀧 竹男様
- 豊泉鉄男様
- 二十歳(平成四年度生まれ)
- 望月美沙さん
- 瀧 泰江様
- 小田巻健次様
- 大川未帆さん

の七名でした。法要のあと記念品と賞状の授与式が行われました。

講演 小野田全宏氏

(静岡県ボランティア協会常務理事)

現地の人の撮影による津波の生々しい映像を見たあと、静岡県ボランティア協会の活動の様子などをお話していただきました。以下はそのお話の中に出てきた支援の具体的な状態です。

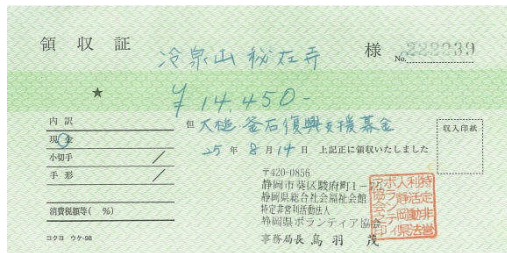
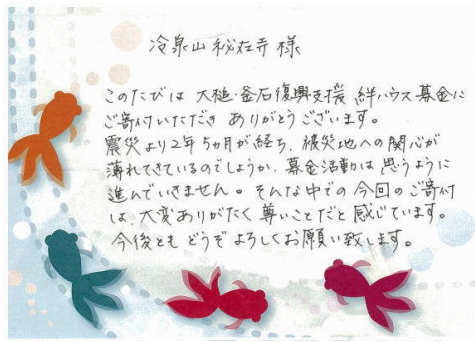
東日本大震災発生後わずか一ヶ月足らずの四月八日に、静岡県ボランティア協会により「遠野災害ボランティア支援センター 遠野まごころ寮」が開設されました。この「遠野まごころ寮」は二年間の間に三千五百人を超えるボランティアが寝泊まりしましたが、この三月に閉所、「三陸ふじのくに絆ハウス大槌」「三陸ふじのくに絆ハウス鶴住居」として生まれ変わり地元の方に活用されています。被災地の復興はまだまだこれからです。「三陸ふじのくに絆ハウス」を支え、支援活動を継続していくための資金として一千万円を目標に募金活動をしています。



早速お施餓鬼の席で募金箱を回したところ、菜流寺・秘在寺合わせて一万四千四百五十円集まりました。小野田さんにお渡ししましたが、後日領収書とお礼状が届きましたのでご紹介しておきます。なお震災直後、全国知事会の調整で静岡県は岩手県の支援県に決定したそうです。

被災地を忘れず、また仮設住宅に暮らす方々が孤独にならないよう、静岡県ボランティア協会では現地の方々との交流も兼ねた“仮設住宅応援ボランティア”活動を継続しています。参加希望の方は県ボランティア協会へお問い合わせ下さい。

第四十五次隊
九月二十六日（木）～三十日（月）



本堂裏の六地藏前とお墓の駐車場に街灯が付きました。夜間の会議などでご不便を付けていました。また防犯灯の役目も果たすので安心です。また防犯灯の役目も果たしてくれると思います。

◆常夜灯設置

◆お墓参りの花殻

花殻はご自宅に持ち帰って市のゴミ収集日に出してください。焼却炉は塔婆焼却のための物です。



◆本堂に椅子五十脚設置

諸行事の折、足のことを心配せず安心して座れるようになりました。ただ仏様や仏壇の前で畏（かしこ）まることを忘れないようにしましょう。



秘在寺活動のご紹介
菜流寺檀徒の皆様もどうぞご参加下さい。

◆第十五回そらの道まつり

十一月三日（日・祭）
午前十時半～午後二時

昨年お休みしたそらの道まつりですが、今年からまた以前のように実施します。町内会を通じてチラシを配布しますので、皆様お誘いあわせてお出かけ下さい。

・今回もフリーマーケットを開催します。「我が家では使わないが、捨てるには惜しい」という物があつたら十月末までに秘在寺へ届けていただけるとありがたいです。

- ◎売価はこちらで決めます。
- ◎売り上げはまつりの会計に組み入れさせていただきます。
- ◎売れ残った品はこちらで処分しますが、引き取りをご希望の方は、あらかじめお申し出下さい。
- ◎新品でなくてもかまいませんが、衣類などはきれいに洗濯しておいて下さい。

◆お参りの旅行

高野山

この秋に行く予定でしたが、都合により来年に延期します。春にと考えているのですが、四月上旬以前ではまだ寒すぎます。一泊二日で宿坊に泊まり、精進料理を味わう予定です。

◆季節を楽しむ会

秘在寺では数年前からお茶の稽古を楽しんでます。毎月一回丸子の吐月峰柴屋寺へ稽古に行っています。秘在寺本堂が完成したのでこちらでの稽古を始めました。どうぞ気軽にご参加下さい。新しい本堂では炉をきつてあるので、冬は炉、夏は風炉の練習ができるようになります。

時々着物の着付けの練習もします。夏は浴衣で半幅帯の締め方をおさらいしました。箆筒で眠っている着物を着てみませんか？
またお茶を飲んで下さるだけでも歓迎です。覗いてみて下さい。

毎月第一水曜日 午後一時半から
秘在寺本堂にて
会費 五百円



◆数珠作り

十月四日(金) 午後一時半から
その道のまつりに販売する数珠(ブレスト型)を作ります。ご自分の物を作りたい方は会費五百円です。切れてしまった数珠をなおすこともできます。

◆その他

紙漉き・御詠歌・お菓子教室などやっておりまして、お気軽にお問い合わせ下さい。

昔ばなし

『小田坂の狐と馬頭観世音菩薩』

(こた)

むかし小田坂にちよいちよい狐が出て、みんながばかされ評判になっていた。あるとき馬で荷を府中に運ぶ者がいた。帰りに用心して小田坂を通ろうとすると、あんのじよう狐が化けて出てきた。(何に化けたかは忘れた)とつつかまえて縛り上げたところが、狐が言うに「かんにんしてもらいたい。かんにんしてくれたら麻疹(はしか)にかかれないようにしてやる。」と言った。あんまり哀れなことを言うもんだから、許して逃がしてやった。それから以降その家では麻疹にかからなくなった。

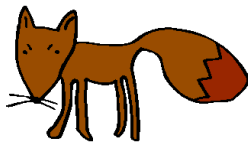
語り手

大村良一氏

(父親から聞いた話)

収録

平成八年十月十六日



小田の狐版画 前田守一氏作

馬頭観世音菩薩

馬頭観世音菩薩の観音様にしては珍しく怒った顔をしており、髪の毛は炎が上に燃え上がるような形をしています。そして頭上には馬の頭が付いています。これは、馬が牧草を食(は)むように煩惱を食べてくれるという考えによるものです。江戸時代になると次第に道中安全や農耕の守護仏として祀られ、動物供養塔として建立されるようになりました。



賤機北学区では地域の事を次の世代につなげようと「写真でつづる地域誌」作成の準備を町内会有志の方々で行っています。住職の担当は寺社と和紙です。そのための暇を見ては学区内のお宮さんや野仏の写真を撮っています。何か資料になる物がありましたら、お知らせ下さい。

◆静岡東教区第一部秋期特別布教

九月三十日 午前十時
聖樂寺（市内有永）
法話 「おかげさま」

今、あたりまえに感謝

講師 島根県出雲市
鹿苑寺 森山隆司師

◆臨済宗妙心寺派花園流御詠歌
第六十三回 全国奉詠本山大会

テーマ おかげさま 「共生共詠」
十月二十二～二十五日
大本山妙心寺

御詠歌全国大会は毎年開かれますが、会場は本山と地方と交互です。

◆つれづれ



秘在寺本堂西側の薬師如来と「そらの道」
(足裏健康遊歩道)

つばめ

六月のある日、庫裏玄関の軒下につばめが巣を作りました。ほどなくして本堂の玄関にも巣ができました。つばめが巣を作る縁起がいいというものの、新しい建物がふんで汚れるのも困ります。それでも雛が生まれて日に日に大きくなる。我が子のようにかわいく思えます。

七月五日、ふと気がつく。庫裏の方の巣が空になっていました。巣立ったようです。本堂の方はいつ頃巣立つかないと家族皆で楽しみに観察していました。ところが、盆の十四日、巣立ちました。ところが、お羽だけ巣に残っています。親や他のつばめがしきりに巣を訪れては促します。力が足りないのか、度胸がないのか。写真はその最後まで残った一羽です。

写真を撮った直後、雛が巣から飛び出て、床におりました。あら、大丈夫？と思う間もなく大空に飛び発つていった。それでホッとしました。間は生まれてから歩き始めるまで一年かかります。ハイハイをし、伝い歩きをし、少しづつ訓練を重ねていくの、あの狭い巣にひしめき合って育ち、いきなり空を飛ぶのですから、びっくりです。巣立ったあとも本堂の周りを飛び回り、底で羽を休めていました。つばめの舞う姿をこんなに間近で見たのは初めてです。二階から見てみるとつばめが急接近してくるので迫力があって見ていて飽きませんでした。

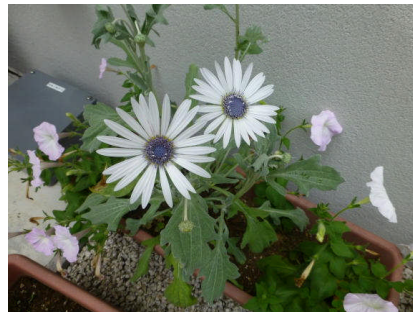


花

本堂新築工事と落慶法要で、花の手入れがいきとどきませんでした。去年採った種を蒔いたのですが、やはり出た芽の数も少なく、育ち方も今ひとつでした。

アークトチスです。去年は夏から霜の降りる頃まで咲き続けましたが、今年はプランターを壁際に置いたせい、暑さに負けて枯れてしまいました。涼しげな色の珍しい花なので大事に育てていたのですが残念。

珍しい色の百日草です。



蓮も二つ咲いただけでした。

